

一方、香川県では道路や橋梁の改良工事には巨費がかかることから、幹線道路は国道として国の事業として改良工事を行うように要望した。

昭和八年十月に、「四国に於ける国道の改良計画を確立し、速かに政府に於て直接改良工事を施行せられんことを望む」との建議をおこなっている。その理由として、「国道第二二号、第二三号および第二四号は主要幹線道路にして運輸交通上頗る重要なものなり、然るに道路の現況は幅員狹隘なるのみならず屈曲甚だ不良にして交通上支障少なからず……（中略）道路法の二〇条第二項に依り速かに政府に於て改良工事を施行せんことを望む」と政府へ国道の改良工事の着手を要望したのである。

国道二二号の着工 県民の要望に應えるためと金融恐慌の匡救事業として国の直轄事業として国道二二号、国道二三号の改良工事をおこなうことになって、昭和九年五月一日に内務省神戸土木出張所香川国道改良事務所が高松港務所内に設置されたのである。

そして最初の国道二二号の高松（塩上町）―屋島間（観光道路）の起工式を六月七日におこない、事務所を塩上町に移して、八月一日に工事に着手した。昭和九年度は事業費二〇万円で延長一六七五呎（塩上町―木太村詰田川西詰）、幅員は塩上町のうち一五〇呎が一五呎、その他は一〇呎であった。昭和十年度は事業費一〇万円で詰田川から春日川東詰までの一二五〇呎を完工、昭和十一年度は事業費一五万円で春日川から西潟元までの一九八二呎を、昭和十二年度は事業費一七万円で古高松口銭場から牟礼村王墓までの二一七〇呎を、昭和十三年度は事業費四万五〇〇〇円で牟礼村王墓から同薬師堂までの六三〇呎の工事をおこない、五月十五日、高松市塩上町―牟礼村薬師堂間七七〇七呎を総工費六六万五〇〇〇円で完成させた。この工事で四国で最初のコンクリート舗装がおこなわれたのである。（『香川工事事務所』（五〇年のあゆみ））

国道二二号が完工した後、国道二三号・高松（西浜町）―丸亀（南条町）間二五・三呎を昭和十四年四月一日から六か年計画で実施することにした。総工費一五〇万円。事務所を綾歌郡宇多津町に移し昭和十四年度は丸亀―坂出間で工事に着手した。しかし戦争に突入すると、資材、労力ともに不足したため、昭和十九年に一時中止となったが終戦後の二十年末には工事を再開したのである。こうして国道二三号の改良につづいて、国道二四号も改良されるようになった。旧国道一一号である。